

目指す学校像	1 明るい学校 2 活力ある学校 3 開かれた学校
重点目標	1 「真の学力」の育成を目指した基礎学力の向上 2 生徒指導・教育相談・特別支援の連携強化による児童の心のサポートと教育環境の充実 3 学校運営協議会での目指す児童の姿について、熟議を重ねた具体的な目標の設定 4 教職員の授業力の向上と健全な職場環境づくり

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標					年 度 評 価			実施日令和7年2月10日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○学校評価の児童への質問「学校や家で自分から進んで学習に取り組んでいますか」の肯定的回答は83.7%であった。 ○さいたま市学習状況調査において、市平均を下回っている教科がある。 〈課題〉 ○児童が、反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分であった。 ○さいたま市学習状況調査において、質問「国語（算数）の勉強は好きですか」の肯定的回答は80%程度である。	・学びの個別最適化・探究的な学習に向けた情報端末の活用と授業改善 ・主体的に学ぶ児童の育成	① S S D B等を活用し、児童の学習のつまずきの早期発見と個に応じた指導の実施。 ② ドリルパークやスタディサプリ等のICT教材の活用を進め、課題の反復を行う。	①学校評価質問「先生は勉強をわかりやすく教えてくださいか」の「そう思う」の回答を85%以上とする。 ③ 学びの指標の質問項目「ICT活用」の向上	①学校評価「先生は勉強をわかりやすく教えてくださいか」の「そう思う」は80.6%であったが97.4%の肯定的回答は得られた。 ②学びの指標「ICT活用」では2回目は3.11Pで0.6P増となった。スタディサプリ12月利用は動画視聴3倍確認テスト2.7倍となった。（前月比較）	B	①校内研修を通して、教職員の授業力向上に向けて取り組み、引き続き授業改善わかりやすい授業展開に努める。 ②今後もスタディサプリは夏季・冬季長期休業中の積極的活用を推進していくとともに家庭学習での積極的利用を促していく。	児童の学力に差がある中ですべての児童に分かりやすい授業を提供することは難しいと思いますが、子どもたちが、何を学び、何を習熟しているのか常に確認していく必要があると思います。 次年度は、家庭学習との連携を図りながら、子どもたちの学習意欲向上に取り組んでいきたい。
2	〈現状〉 ○さいたま市学習状況調査において「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした割合は、全学年で約85%以上だった。 ○児童が充実した学校生活を送れるように教員が日々児童の様子を把握、適切な対応を意識した。 〈課題〉 ○児童一人ひとりに寄り添った対応ができるよう実態を把握し、より適切な対応ができるようにしていく必要がある。 ○学校が児童にとって居心地が良い場所となるような環境整備が必要である。	・児童一人ひとりの支援に向けた生徒指導・教育相談・特別支援の連携強化 ・毎月の安全点検への迅速な対応並びに環境整備	①おはようメーターや心と生活のアンケート等を活用し、児童一人ひとりの把握し、個に応じた対応ができるようにする。 ②毎月の生徒指導・教育相談部会やケース会議などSC、SSW、さわやか相談員と連携し、児童への継続的な支援を行う。	①学校評価「みんなと仲よく、協力して過ごしていますか」の「そう思う」という回答が80%を超えているか。 ②学校自己評価に係る教員アンケートで「生徒指導、教育相談、特別支援」の質問に関する肯定的回答の割合が90%以上になったか。	①学校評価「みんなと仲よく、協力して過ごしていますか」の「そう思う」は68.2%であった。目標値には達しなかったが肯定的な回答は94.4%得られた。 ②専門部会では各学年における生徒指導上の課題について共有し具体的な対応を検討することができている。生徒指導92.7%教育相談92.7%特別支援95.1%であった。	B	①心と生活のアンケート等を基に一人ひとりの個性や発達段階、興味関心、悩み等に寄り添い児童の内面に即した教育を充実させていく。 ②引き続き生徒指導・教育相談部会にて情報を共有しSCやSSWとの連携を深めていく。必要に応じて関係機関と連携しながら取り組んでいく。	学校生活で様々なことがある中で94%が楽しく過ごすことができているのは、先生方がよい環境をつくっているおかげである。子どもたちの相談を担当の先生だけで受けるのは、なかなか難しさもあると思うので学年や学校全体で支援を求めている子に対処した方が良い。 安心して学校生活を送るためにも施設の改善、改修は不可欠である。是非、誰もが使いやすい学校づくりをしていただけるようお願いしたい。
3	〈現状〉 ○情報アプリの活用により、学校だより、学年だより等の文書が確実に保護者に届くようになっている。 ○コロナ禍よりも保護者、地域の方に来校していただく機会を増やすことができた。学校評価の質問「授業参観、学校公開」に関する肯定的回答は96%であった。 〈課題〉 ○児童の声を聞き、児童を中心においた協働活動を行うことが必要である。	・目指す児童の姿を地域で共有するための教育活動の公開と情報発信 ・学校運営協議会の確実な実施と熟議による家庭、地域、学校の連携強化	①学校安心メール、学校・学年だより等を活用し、めざす児童像に関わる記載や児童の活動の様子について積極的に情報発信を行う。 ②町探検の保護者への協力呼びかけや個人面談や授業参観や学校公開の参観の機会を適切に設ける。	①学校自己評価に係るアンケートで児童、地域、保護者の「めざす児童像」に関する9項目の肯定的回答の割合が80%以上になったか。 ②学校自己評価に係る質問「学校は地域やPTA、家庭と連携している」の地域、保護者の質問に関する肯定的回答の割合を90%以上になったか。	①「めざす児童像」で80%未満だった項目は保護者：(6)77.8%(7)66.3%(8)71.2%(9)71.6%地域：否定的意見20%以上の項目はなし項目：(6)自ら学習できる(7)自分の意見(8)やるべきこと(9)注意できなかった。肯定的回答は地域95.5%保護者85.9%であった。行事や校外学習の状況報告等、時々に応じて積極的に発信することができた。	B	①目標値未満だった項目(7)(8)(9)は発表場面の意図的設定や振り返り等に重点をあて授業を中心に全ての教育活動で取り組んでいく。また(6)は家庭学習の充実を図りながら自ら学習できる児童を育成していく。 ②引き続き積極的な情報発信を通して教育活動への理解を求めている。	地域に開かれた学校としては、来校者の増加は良い。引き続き、地域連携を積極的に行っていただきたい。保護者による旗当番は以前行われていたやり方（日程選択）ができるとより参加しやすいと思う。情報管理については、適切に行っていただきたい。スクリレを活用する事で、保護者への情報がスピーディーかつ正確に届くようになった。
4	〈現状〉 ○研修主任やエバンジェリストを中心に教員の実態に応じた研修を自主的に行うことができた ○週に1回、学年会を行うなど教職員間でコミュニケーションはとれている。 〈課題〉 ○学校評価における働き方改革に関する肯定的回答は約78%であり、業務改善をより意識していく必要がある。	・教職員の授業力の向上と健全な職場環境による目指す教師像の具現化	①授業改善にエバンジェリストによるICT活用に関する情報提供を行う。 ②業務の効率化を意識するため、ノー残業デーを定期的に行う。	①学校自己評価に係るアンケートで教員の「研修」の質問に関する肯定的回答の割合が90%以上になったか。 ②学校自己評価にかかるアンケートで教員の「学校は働き方を推進している」の質問に対する肯定的回答が85%以上になったか。	①学校自己評価「研修」の項目で肯定的回答は97.6%以上になった。各公開授業では主体的な学びの充実に向けて授業の工夫改善やICTの有効活用について研修を深めた。 ②学校自己評価「学校は働き方を推進している」の項目で肯定的回答は85.4%となった。情報端末の活用によるペーパーレス化やスクリレ利用により作業時間の軽減につなげることができている。	A	①ICTはシステム更新に対応するため職員間の情報共有が不可欠である。今後もエバンジェリスト研修の伝達や情報提供を通し充実させていく。 ②ノー残業デーを設定しているものの有効活用できていない状況が見られる。今後も毎月の勤務時間外在校時間を確認し、業務の改善に向けて指導助言していく。	授業力の向上のために時間を割いていたideているのはありがたいが、教職員の負担にならない範囲で行ってほしい。定時で帰宅する事は、本来の先生の働き方だと思う。一人に偏りすぎない業務改善を図っていただくようお願いしたい。